

春夏企画展

堀多恵のまなざし

—堀辰雄と文学者たち 師事・交友をめぐる—



昭和12年 堀辰雄と多恵 追分測候所裏にて

2022.3.17 thu. - 7.12 tue.

〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町大字追分662
TEL・FAX 0267-45-2050
<https://www.town.karuizawa.lg.jp/>

堀辰雄文学記念館

開館時間 9:00—17:00 (入館は16:30まで)
休館日 水曜日 (祝日は開館)
入館料 大人400円〔300円〕
小中高生200円〔150円〕
※〔〕は20人以上の団体料金
当館の入館券で追分宿郷土館も入館できます



堀 多恵 大正2(1913)年—平成22(2010)年

堀辰雄の妻。随筆家。軽井沢で静養滞在していた昭和12(1937)年に追分油屋旅館で堀辰雄と知り合い、翌年に結婚する。夫である辰雄の生涯を支え続けた。

主な著作：堀多恵子著『葉鶏頭 辰雄のいる随筆』、『来し方の記・辰雄の思い出』、『堀辰雄の周辺』など

「堀多恵子」はペンネームで、堀辰雄は生前、堀多恵のことを「多恵子」と呼んでいたことに由来している。

堀辰雄を支えた人々の記憶

堀辰雄は、学生時代に神西清や詩集『青猫』（萩原朔太郎著）に出会い、文学の世界へと導かれていきました。

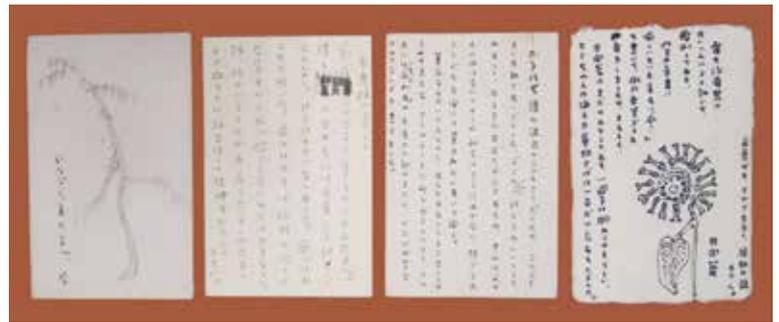
大正12(1923)年、堀辰雄は、室生犀星に誘われて初めて軽井沢を訪れます。この地に魅了された堀辰雄は、以後毎夏のように軽井沢を訪れ、文学者たちと交流を深めました。

父親のような愛情で堀辰雄を見守り続けた室生犀星、堀辰雄が師と仰ぎ影響を受けた芥川龍之介、病弱な堀に励ましの手紙を数多く送った友人たち……堀辰雄は生涯を通して様々な文学者に支えられました。

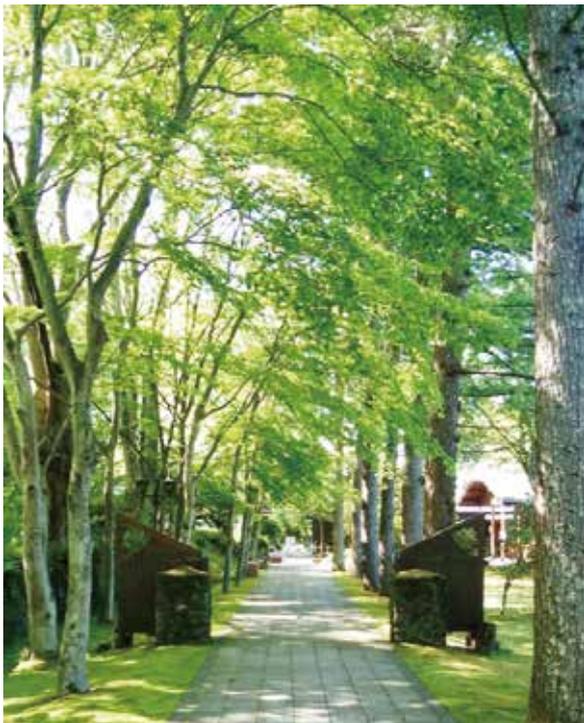
本展では、堀辰雄が師事し影響を受けた作家を中心に、堀辰雄の妻・多恵の回想とともに、書簡や資料をひもどくことで、堀辰雄と文学者たちの温かな交流をめぐる。

■展示する主な文学者たち

芥川龍之介(生誕130年)/川端康成(没後50年)/神西清/萩原朔太郎(没後80年)/室生犀星(没後60年)など



室生犀星書簡(左から堀辰雄宛て2通:大正12年12月7日、昭和13年4月28日)
堀多恵子宛て2通:昭和30年10月17日、昭和31年8月30日)



堀辰雄文学記念館入口
左は室生犀星から新築祝に贈られた楓/右は多恵が植えた落葉松

野いばら講座 予約制

日時：5月28日(土) 13:30-15:00

演題：「音楽で出会う堀辰雄 ～蓄音機・SPレコードで聴く～」

講師：庄司 達也氏(横浜市立大学教授)

※場所・定員・申込方法等、詳細が決まり次第、HPに掲載します。

【交通案内】

- 北陸新幹線(長野経由)軽井沢駅から車で約20分
- しなの鉄道信濃追分駅から徒歩約30分、タクシーで約5分
- 町内循環バス西コース信濃追分駅バス停から堀辰雄文学記念館前まで約10分(フリー乗降エリア内)
- 碓氷軽井沢ICから約30分 ○佐久IC、小諸ICから約20分 ※駐車場：15台分

